

教育目標「考動」

「終」「始」の意識と成長 ～準備と後始末のつながりを感じること～

2022年と2023年終わりと始まりは、背中合わせ。23時59分から午前0時になった瞬間新しい年となる。花火が上がり新年を祝う。独特の雰囲気がある。

「旧年中はお世話になりました。本年もよろしく願います。」新年のご挨拶である。終わりを迎えられたことへの感謝が添えられることが素敵な感性だと感じる。どこかで聞き、記憶に残っていて、この時期になると大切にしている言葉がある。「新年を迎えこの一年をお願いするより、大晦日に感謝の気持ちを伝えることを大切にしたい。だから、大晦日の新年を迎える前に感謝の気持ちで手を合わせています。」



節目は「終」「始」への意識でもある。4月に始まり3月に終わる。新年を迎え同時に終わりを意識したまとめの時期を迎える。日本においては4月⇄3月を「年度」としているからであるが、始まりの1月に終わりの3月に向けての準備が大切になることは、考えてみると一興である。

文部科学省は学校で学ぶ教科の内容を示すだけでなく、学ぶ方法や授業の方法なども示し、最近では「めあて」と「振り返り」を授業の始終で確認することが推奨され、全国的に実施している。本校でも授業の始まりには今日の授業の「めあて」を示し、授業が終わる時に授業で学んだことを「振り返る」時間を設定している。

湖岸のなぎさ公園では土日に多くのテントが張られるようになってきた。テントやバーベキューの道具、寝袋やランプ、キャンプは多くの「物」が必要となる。キャンプを始める時より、終わる時の後片付けが大切。いい加減な片付けでは、何がどこにあるか、数ヶ月も経てば片付けた場所すら忘れてしまっていたり、次に使えない事態を招いたりして、次の準備がスムーズにできない。

スポーツ観戦でも「終」を感じる。試合前の準備としてストレッチ、練習で積み上げたことを再度確認しながら、試合の時を待つ。そして、激闘、激戦の試合後には準備以上に入念なストレッチ等体のメンテナンスをされる。

ピッチャーの試合後の肩やひじへのケアの様子を見ると、準備体操よりも重要なことなのだろうと感じさせられる。故障に繋がらないよう、疲れた筋肉の手当を丁寧にされている。

成長するための鍵は何か。日々の意識が何を気にしているかは成長に大きな影響を与える。例えば「定期テスト」について考えてみるとその意識の持ち方のズレに気が付くかもしれない。

定期テストの前に、テストで少しでも多く得点を取るため懸命に学習をする。学校でも部活を停止にして、その間学習に集中することを推奨している。

テストが返却された時は「点数」が気になるが、「間違っただ所」を重要視する人は少ない。家庭でもきっと主役は「点数」だろう。本当に大切な

のは間違っただ所を復習しておくことである。つまり、間違っただ所を補完し次に正解を導きだせれば「点数」に繋がる。一歩先に進む材料が「間違い」にあることを再認識してはどうだろうか。

12月には高校受験に向けての面接を行なった。その中でこんな言葉に出会った。なぜ部活で成長することができたかについて振り返ってのひと言。「数多い敗戦から多くの事を学ぶことができた。」視点の奥が深い。自身で敗戦を分析し弱点を補強。例えば30分間走り切れなかったことが原因なら、自主練で走り込み、脚力不足なら、筋トレを強化。与えられたことだけを努力するのではなく、自分で不足を見つけ、補充する。自主性の本質である。

与えられた事を努力しやり切ることは、自主性の発芽ではあるが、さらにその先にある夢に向かいたいなら「自分で不足を見つけ補完を課す」ことが必要であり、このことが自主性の本質である。

静寂の中で新年を迎える時に、

1年を振り返り

成長の軌跡を自信とし

不足を見だし真摯に受け止め

改善の視点を発見できれば

準備完了

「さあやるぞ!」 終わりと始まり

まさに「考動」

詩は今年度641編が寄稿されました。その中から90編を詩集「夢の泉」第2集として発刊します。
また、創立40周年を迎えた記念として合唱曲集「夢の泉」制作します。作曲は 山下 祐加 先生に依頼。
寄稿された641編の詩より、詩人 野呂 昶 先生、作曲家 山下 祐加 先生、瀬田北中学校教職員により
3編の詩(各学年1編)を選出、合唱曲として誕生いたします。2月下旬完成予定。代表作品のため作者紹介。

「願う」

三年

思いどおりいかない日だって
辛くて消えたい日だって
それでもめげずに
生きてきた
見えないところで
頑張っている
君のことが好きだよ
だからどうか
すばらしい日が
君のところに来ますように
振り返れば
たくさんの愛があふれてる
だから泣かないで
幸せになつてね
私の願い

「いつも通りのいつもじゃない日常」

二年

とびらをあけて
ひかりをあびる
少しの憂鬱をかかえながら
のろのろ のろのろ
歩き出す
小学生の明るい声
大人の少し暗い声
たくさんの音を聞きながら
ゆっくり ゆっくり
空をみる
いつもとちがう色
いつも にている色
いつも通りでいつもじゃない日常
さあ今日もはじめよう

「太陽」

一年

太陽はみんなの心を明るくする
暗い心も晴れにして
元気な心にしてくれる
そしてみんなを笑顔にしてくれる太陽
私たちの笑顔で太陽も元気になる
夜になればまた明るく私たちを照らすための
準備をしてくれる
朝になれば太陽が出て 花や鳥や町を
輝かせ目覚めの合図をしてくれる
そんな目覚めの合図は遠い遠い国にまでも
明るく朝をむかえてくれる
窓辺からさしこむ日ざしはどこまでも続いて
私たちを包み込む
悲しいとき苦しいときはいつも太陽が
照らしてくれる暖かな光で
私たちを元気にしてくれる
まるで私たちの夢までもその輝きで
照らしてくれているかのよう



写真：12月6日 1年校外学習「水荃焼陶芸の里」体験会場前 「初冬の太陽」(パノラマ撮影)